令和２年度　指定管理者モニタリング評価シート

施設名称	スポーツパークまつばら
所在地	松原市三宅西７丁目１０４０番１
事業内容 （設置目的）	市民の地域コミュニティの形成及び市民スポーツの振興を図る
所管部課	都市整備部みち・みどり整備課
指定管理期間	令和２年４月１日から令和７年３月３１日まで
指定管理者	ミズノグループ
指定管理料	なし

評価項目	評価の基準	評価	
		指定管理者	担当課
市民の利便性向上について	市民へ平等利用の確保が行われたか。	A	A
	個人情報保護のための措置は適切に行われたか。	A	A
	苦情への対応及び防止策は適切に行われたか。	A	A
	利用者ニーズの把握に努め、サービス向上の取組が行われたか。	B	B
	施設の利用率（利用者数・稼働率）は昨年度と比べ上昇したか。	B	B
適正な施設管理運営について	施設、設備の保守・点検は適切に行われたか。	B	B
	備品の管理は適切に行われたか。	A	A
	職員の人員配置は適切に行われたか。	B	B
	職員の指導育成、研修体制は十分にされたか。	A	A
	日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の危機管理体制が十分であったか。	A	A
	管理運営経費縮減への取組の方策は適切に行われたか。	A	A
	自主事業について創意工夫がなされているか。	B	B
指定管理者の経理について	収支計画と収支実績に乖離はなかったか。	B	B
	経営状況は良好であるか。（貸借対照表等による）	A	B

〈評価〉　A：優れている　　B：問題ない　　C:改善を要する又は改善を指示

評価コメント

【市民の利便性向上について】
・ 市民の平等利用についてはＷＥＢ施設予約システムを活用するとともに、電話、窓口受付も行い、誰もが利用できるようにしている。
・個人情報保護については市条例及び自社のプライバシーポリシーに沿った取り扱いがされており、年２回の職員研修等も行われ徹底されている。
・苦情対応については、グループ全体で苦情管理を行い柔軟に対応している。また、再発防止策の運営研修を実施し、現状分析と追加策の検討を実施している。
・利用者ニーズの把握について、令和２年度よりフットサルコートにおいて、平日９時から１８時までを対象に個人利用ができるように改善を行った。またスケートパークにおいて、初心者滑走コースを設置した。
・施設の利用率（フットサルコート）については、コロナの影響も要因の一つであると考えられるが、事業計画上の利用率とはまだ差がある。

【適正な施設管理運営について】
・ 施設・設備の保守点検及び備品管理については施設内の設備、備品の点検について毎日の日常点検、専門技術者による定期点検が実施されている。また、施設内の清掃も毎日行われ清潔である。
・人員については、計画的にアルバイトを含めた全職員に必要な研修が行われ、適正に人員配置されている。
・緊急時の対応については、マニュアルが整備され、事故等が起こった時に備えられており、必要な研修も行われている。場内で起こった怪我等の利用者の事故についても迅速に適切な対応がとられている。
・収支については、緊急事態宣言に伴い施設の閉場及び時間短縮を行ったため、計画書よりも少ない収入となったが、経費調整により支出が抑えられているため黒字となった。
・自主事業について、様々な事業が行われており事業計画書記載のものは概ね実施された。しかし、高齢者向けのプログラムにおいて、様々なコロナ予防対策を実施していたが、安全を期すため中止とした。

【指定管理者の経理について】
・特段異常値等もなく問題ないものと思われる。

【総評】
令和２年度の自主事業については、新規事業として関西規模で行われたミズノフットサルリーグの予選開催やスポーツパークまつばら杯などを実施し、利用者ニーズを反映している事業であると考えられる。また従前より実施しているサッカースクール、スケートボードスクールの人気も高い。レンタル用品や軽食販売においても、利用者の要望を受けて種類や数を増やすなど、利用者の利便性も図られたことは評価できる。計画されていた事業も概ね実施されたが、高齢者向けのプログラムについて、様々なコロナ感染予防対策を実施していたが、安全を期すため今回は中止とした。
そのほか、さらなる利用者のニーズに対応するため、多目的コートの個人利用制度実施やスケートパークの初心者コースの設置を行った。施設管理は問題なく行われており、設備・備品の管理は徹底され、安全安心に施設利用ができる体制がとられている。
収支は、緊急事態宣言に伴い閉場をした時期があったため、計画書より少ない収入ではあるものの、創意工夫により広告宣伝費や印刷製本費などの支出が抑えられたため黒字となっている。利用者数については、フットサルコートでは目標人数まで、あともう少しであった。一方、スケートパークでは目標人数との乖離があるため、さらなる利用者ニーズの把握や広報宣伝活動において創意工夫を行い、利用者を増やす取り組みを行うよう努められたい。